



FFR yarai 導入事例



学校法人 青山学院 様



製品選定は“セキュリティホールが一番少なくなるものはどれか”という考え方でセキュリティ脅威に対するユーザーへの啓発活動も合わせて実施

学校法人青山学院様は2014年の創立140周年を機に、150周年への更なる飛躍に向けて「AOYAMA VISION」を策定し、「すべての人と社会のために未来を拓くサーバント・リーダーの育成」を掲げました。ビジョンの実現に向けて、3つのテーマである「オール青山による個に応じた成長支援」「世界と地域に開かれた学院」「卓越した知を創造する研究共同体」を実現するために核となる7つのアクションに取り組んでいます。



青山学院大学 青山キャンパス 間島記念館

青山学院大学事務システム部事務システム課では学院全体の事務システムの企画・開発・運用・セキュリティ対策を行っており、セキュリティ対策については技術的な対策にとどまらず、ユーザーにセキュリティに関する意識を高く持ってもらうべくセキュリティ脅威に対する啓発活動も合わせて実施してきました。

「セキュリティ対策製品は、コスト面はもちろんですが、“本学のシステムに合致するものでセキュリティホールが一番少なくなるものはどれか？”という考え方で選んでいます。啓発活動としては、ポータル等でのインシデント事例の紹介や関連資料の配布のほか、各部署にシステム担当者を置き、事務システム課と各部署のシステム担当者が一堂に会する説明会を年2回程度実施しています」（辻井氏）

導入の背景

「ふるまい検知技術」「エンドポイント型」の標的型攻撃対策製品を探していた

2015年に日本年金機構等の公的機関や他大学において標的型攻撃による情報漏洩が発生したことから、青山学院では、教育機関も狙われていることを改めて意識し、標的型攻撃対策の必要性を強く感じるようになりました。

「ウイルス対策ソフト、USBメモリの暗号化、PCハードディスクの暗号化、ICカードによるPCログイン等、これまでもさまざまなセキュリティ対策を実施してきましたが、日ごろからメディアやIPA等からの情報、セキュリティ関連の展示会、販売店からの情報等で情報収集していましたので、標的型攻撃対策に関してはパターンファイルによる検知ではもはや追いつかない、ふるまい検知が必要だと思いました」（中丸氏）

そこで標的型攻撃などの高度なサイバー攻撃対策として、ふるまい検知技術を採用した製品を検討することになりました。当初候補に挙がったのは、ネットワーク経路に設置するサンドボックス製品でした。

「しかし、ネットワーク経路に設置する製品である以上、ネットワークそのものが止まってしまう可能性があるため、業務の効率化やシステムの安定稼働の観点から候補から外しました」（清水氏）

「また、そういったネットワーク経路に設置する製品では、USBメモリ経由でエンドポイントに侵入するファイルは検知できないことや、侵入から攻撃発動までの時差があるマルウェア等はサンドボックス製品では検知できないのでは、といった不安もありました。そこでエンドポイントでの対策を優先して考えるようになりました」（辻井氏）



（左から）事務システム部システム課 清水 誠士氏、辻井 紀彦氏、中丸 拓也氏

導入の経緯

決め手はFFR yaraiの日本年金機構を狙ったマルウェア防御実績

そんな中、学内常駐員から「エンドポイントでふるまい検知・防御する製品がある」と紹介されたのがFFR yaraiでした。

「FFR yaraiの製品説明を販売店から受けた際、まさに標的型攻撃対策の必要性を考えるきっかけになっていた、日本年金機構を狙ったマルウェア「Emdivi」のリアルタイムでの防御実績があったことは、今回の製品選定に大きく影響しました」（中丸氏）

「製品が純国産であることも安心感につながりました。海外製品では表記がわかりにくいことがあります。また問い合わせをする際も、外資系企業では海外の本社に確認する必要がある場合に回答までにタイムラグが生じることもあります。その点、日本企業ならコミュニケーションが取りやすいと思いました」（辻井氏）

その他、コスト面についてもFFR yaraiの教育機関向け特別ライセンス「アカデミック・ライセンス」費用が適用されたこともあり、このたびFFR yaraiの導入が決定しました。

導入の効果

不審なファイルを検知、他のソフトとの干渉もなく、安定した運用を実現

FFR yaraiは事務システム部が管理する全ての端末に導入されています。

「事前評価フェーズにおいて部内でFFR yaraiをテストしたところ、ユーザーが意識していない疑わしいファイルが検知できたことから、導入前からFFR yaraiには期待を持っていました。そのファイルはウイルス対策ソフトでは検知できませんでした」（清水氏）

導入前にはユーザーにFFR yaraiの製品情報を提供し、各部署のシステム担当者を対象にしたFFR yaraiに関する説明会も実施しました。「全端末導入後も他のソフトとの干渉もなく、安定した運用ができています。管理コンソールでの状況確認等もわかりやすいと思いました」（辻井氏）

今後の展望

FFR yaraiを皮切りにシステム全体のセキュリティレベルを底上げしていく

青山学院ではサイバーセキュリティ脅威動向に合わせ、今後もセキュリティ対策の強化を検討していく予定です。

「今回のFFR yaraiの導入でエンドポイントはセキュリティレベルの底上げができたと考えています。今後検討していくのは、例えばFFR yaraiのサーバーへの導入等、異なるレイヤーのセキュリティレベルの底上げです。迫り来るサイバーセキュリティ脅威に対抗するには、様々なレイヤーのセキュリティレベルの底上げをすることでシステム全体のセキュリティレベルの引き上げを図っていく必要があると考えています」（田島氏）



事務システム部 事務システム課
課長 田島 謙一氏

導入事例に記載された情報は初回掲載時（2016年7月）のものであり、閲覧・提供される時点では変更されている可能性があることをご了承ください。導入事例は情報提供のみを目的としています。当社は、明示的または暗示的を問わず、本内容にいかなる保証もいたしません。

製品・サービスについてのお問い合わせは

株式会社 F F R I

〒150-0013

東京都渋谷区恵比寿1-18-18 東急不動産恵比寿ビル4階

TEL : 03-6277-1811 E-mail : sales@ffri.jp

本製品に関する情報はインターネットでもご覧いただけます。

<http://www.ffri.jp/>

■このパンフレットの内容は改良のために予告無しに仕様・デザインを変更することがありますのでご了承ください。

Ver 2.00.01

2016年7月現在